

## キャリアデザインセンター・地域密着プログラム

### 5ゼミが参加 “学び”を生かす

#### 「納豆」「和菓子掛け紙」…課題解決に挑戦

キャリアデザインセンターが、川崎市と連携して昨年からはじめた、「課題解決型インターンシップ」。今年は11の企画に学生がチャレンジしている。川崎駅周辺の情報発信を地域発で行う市民参加のサイト「かわさきe-town」には4人の学生が参加し、得意分野を生かして取材・編集を行っている。7月30、31の両日にはゼミナール単位で取り組んだ成果発表会が生田キャンパスで開かれ、各ゼミは、依頼企業や市役所関係者の前で見事なプレゼンテーションを披露した。

#### 売り上げアップに新たな“商品戦略”

納豆メーカー「カジノヤ」からは昨年に続き、課題解決の依頼があり、伸び悩んでいる既存商品をどう立て直すかというテーマに商学部の石川和男ゼミと、経営学部の池本正純ゼミが取り組んだ。

石川ゼミは日ごろ学んでいる「マーケティング」を最大限に活用し商品特性、消費者の購買行動、知名度・認知度調査から、「カジノヤ」ブランド確立のための核となる商品と、それを核とした商品展開を提案。池本ゼミは、ターゲットを明確にした販売戦略が必要と、既存商品を男性向け・女性向けにリニューアルすることを提案した。

カジノヤの出席者は、「これから『納豆ファン』になってほしい若い世代からの斬新な提案を驚きと感激の思いで受けとめた。社内に持ち帰り、商品化の可能性について話し合いを重ねる」と話した。

#### 「川崎」をイメージ 斬新なデザイン提案

老舗和菓子店「仙臺屋」からは、「川崎」をイメージでき、幅広い世代に親しまれる贈答用掛け紙のデザインの依頼があり、商学部の石川和男ゼミ、生田目崇ゼミ、経営学部の田口冬樹ゼミ、文学部の板坂則子ゼミがチャレンジ。「川崎」のイメージをアンケート調査から探り、デザインのコンセプトを決めたゼミなど、学部での学びを生かし、個性あふれるデザインを提案した。江戸文学・文化を専攻する板坂ゼミは4種類のデザインを披露。代表の鶴見斐香さんは、「美しく『見せる』プレゼンを目指し、妥協しなかつたので毎晩遅くまで頑張りました」と話した。同ゼミは「CM」まで制作し、出席者を驚かせた。

池本キャリアデザインセンター長は、「専大生の『潜在能力』を示すこのインターンシップは、学んだことをフル活用し、『総合力』が問われるものだ。学部を越えた発表は教員、学生それぞれの刺激にもなった。ほかにも進行しているインターンシップの成果も期待したい」と話している。



▲「川崎市」の政策から「音楽のまち」を浸透させるデザインを提案した石川ゼミ



▲「川崎市」のイメージアンケートからデザインを決めた生田目ゼミ



▲「昨年大活躍の先輩に続け！」とチャレンジした池本ゼミ



▲詳細なアンケートと調査で、“熱い”プレゼンを披露した石川ゼミ



▲「色」にこだわった提案の田口ゼミ



▲4種類の掛け紙を提案した板坂ゼミ



▲「妥協しないのが板坂ゼミの特徴」と笑顔の鶴見さん



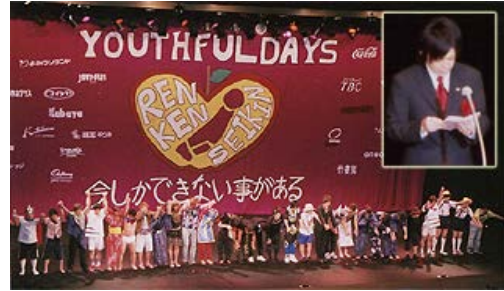
## 1年次生らライブ満喫

### 1年次生らライブ満喫 お楽しみ「青衿祭」開催

新入生歓迎セレモニーである第40回青衿祭(主催・連合県人会)が7月14日、東京・渋谷C.C.Lemonホールで開催された。1年次生ら650人が「SNAIL LAMP」のライブやアトラクションを楽しんだ。

今年は、はしか休校の影響で、当初の6月4日から1カ月以上延期しての開催だった。

実行委員長の高橋達也さん(商4)は「休校による中止、中止から延期と急な決定が続き、ライブ出演者を変更するなど準備は一から始めたに等しかった。実行委員一同、大変な思いをしたが、結束力が深まった」と話している。



▲アトラクションのフィナーレ。会場を盛り上げた連泉有志が会場に一礼。右上はあいさつする高橋実行委員長

## 川島杯争奪野球大会

### 「Line's」が優勝

「第41回川島正次郎杯争奪野球大会」(連合県人会主催、工藤樹実行委員長・文4)の決勝戦は7月6日、川崎市の宇奈根球場で開催され「Line's」が「Tad's」を破り優勝、出場80チームのトップに立った=写真。

2カ月間にわたる大会の実行委員で会計を担当した田部井博昭さん(ネット情報4)は「はしか休校で、大会が夏休み前に終了するかどうか心配だったが、無事終わって実行委員一同ほっとした。今年はいつよりもより出場チームが少なかった(例年100チーム参加)、来年は奮っての出場を期待します」と話した。



## ◀New Ground - 新しい見方<16>▶

### ヒーロー誕生

平野 達也(経営2・ジャーナリズム研究会)

専大に入って、気づけばもう2回目の夏休みだ。どんなふうに過ごそうか。あれ、去年はどうだったっけ？ 去年はどんな夏休みを過ごしたっけ？ でも大した答えは出てこなくて、覚えているのはギリギリになって課題レポートに必死に取り組んでいたことぐらい。

そんな私が毎年楽しみに見ているものが全国高校野球選手権大会、そう「夏の甲子園」だ。気がつけば選手が全員年下ということに驚きつつ、去年も家族と熱心にテレビを見ていた。決まった高校を応援したりはしないが、神奈川県民なので地元の代表校は応援する。全国一の激戦区といわれる神奈川を勝ち抜いた県代表校にはぜひともがんばってほしいと思う。

その甲子園に、去年「ヒーロー」が出現した。言わずと知れた「ハンカチ王子」こと早稲田実業高校の斎藤 佑樹投手だ。青いハンカチで汗を拭く姿が全国で話題になり、駒大苫小牧との決勝戦でライバル・田中将大投手と壮絶な投手戦を繰り広げ、延長引き分け・再試合の末に勝利をつかみ取ったのは記憶に新しい。プロの道を選ばずに早稲田大学に入学したあとも、東京六大学野球リーグでは17年ぶりの1年生優勝投手として胴上げされ、日米大学野球選手権大会では米国開催大会で初の優勝を成し遂げた。多くのメディアが彼を取り上げ、全国が彼を通じて高校・大学野球に注目し、球界はすごく盛り上がった。間違いなく彼は「ヒーロー」と言っていいたいだろう。

そして今年も甲子園が始まる。これを書いている時点では、ほとんどの地区代表が決まり、本紙が発行されるころには、熱戦がスタートしている。どんな戦いになるのか、どんなドラマが見られるのか、そしてどんな「ヒーロー」が誕生するのか、今年もとても楽しみだ。

## 多摩区・民家園通り商店会夏まつり

### 吹奏楽研究会、魚田ゼミが協力

7月21日に行われた多摩区の「民家園通り商店会夏まつり」に今年も本学は、「専大ブース」を出し、地域の皆さんと触れ合った。

オープニングパレードには吹奏楽研究会が登場。パワフルな演奏で祭りを盛り上げたほか、経営学部の魚田勝臣ゼミナールのメンバーも協力。ゲーム企画の運営やお菓子の販売を行った。なお、同ゼミの売り上げはすべて交通遺児育英会に寄付された。



▲オープニングパレードの吹奏楽研究会



▼▲子どもたちと交流した魚田ゼミ



《マンガ》

合宿に行こう！

（漫画研究同好会・しまはるき 作）

